



オミクロン警戒中

なでしこ

東京都杉並区立大宮中学校 学校だより

令和4年3月18日 第11号(19-53)

発行責任者: 校長 関田 誠

『大宮中精神: 優しさをもって、夢や目標に挑戦する若者であれ!』

3/18(金)卒業式校長式辞(抄録)『あきらめたらそこで試合終了』

(前略) 校長としての私の授業は、朝礼や学校行事、儀式での話でした。未来を担う若者に伝えたいことがたくさんありました。私は機会あるごとに、大宮中精神『優しさをもって、若者らしい夢や目標に挑戦せよ』と話してきたつもりです。今日の卒業式は最後の授業です。この授業のテーマは、『SLAM DUNKに学ぼう』です。1990年代に井上雄彦さんが描いた『SLAM DUNK』。累計一億冊以上売れ、過去には文化庁が実施した「日本のメディア芸術百選」の漫画部門で、第一位に選出された傑作です。漫画やアニメは世界に発信できる日本の誇る文化です。この秋に映画も完成すると聞いています。コロナ禍で困難な課題に直面してきた私たちが『SLAM DUNK』に学びましょう。皆さんは四月からの上級学校の舞台に立った、と想像して聞いてください。

春。神奈川県立湘北高に入学した、不良少年桜木花道。キャプテンの妹で同級生の赤木晴子に出会い、身長と身体能力の高さを見込まれてバスケット部に誘われます。バスケ初心者の花道は、晴子に一目惚れし、彼女目当てに入部します。そんな花道でしたが、監督の安西先生の下で、練習や試合を通じてバスケットの真の面白さに徐々に目覚め、紆余曲折を経ながら才能を開花させていきます。いつしか花道の周りには様々な人が集まります。その結果、県代表としてインターハイ出場を果たします。大会に備えて、花道は2万本のジャンプシュートを練習して本番を迎え、初戦を勝利します。二回戦の相手は大会三連覇中の王者、山王工業でした。試合は大苦戦。残り時間11分20秒で、20点以上のリードを許します。安西先生は最後のタイムアウトを要求して、花道をベンチに下げます。花道は(オヤジめ…、この天才を下げるとは…。あきらめやがったな!!)と心の中でつぶやきます。花道の脳裏に「敗北」の二文字が…。そんな花道に、安西先生は「私だけかね…? まだ、勝てると思っているのは?」と問います。花道は「あきらめたんじゃないのか!? オヤジ…?」すると「あきらめる? あきらめたらそこで試合終了ですよ?」と言い、リバウンドがいかに重要であるかを説き、花道をコートに戻します。そこからの花道に迷いはなく、リバウンドボールを取りまくります。花道の信じられない活躍で、チームが活気づき、試合終了間際に1点差。そこで、花道は右45度の位置で流川からのパスを受けます。そして「左手はそえるだけ」と念じ、2万本練習したジャンプシュートを放つ…。このボールに、皆さんの4月からの、わくわくする生活を乗せたいですね。



昨年、大宮中にトップアスリートを連れて来校された、辻秀一スポーツドクターを覚えていますか? 著作の『スラムダンク勝利学』で、こんなことを書いています。「あきらめ」の気持ちは、セルフイメージ(つまり自分自身への思い)を縮ませて、ヒトを投げやりにします。「もうだめだ」とか「やっぱり勝てない」と考えることは、変化よりも結果を追いかけている証拠です。変化から学ぶことを目標にしている選手は、絶対にあきらめません。終わる瞬間まで変化はあり、学ぶこともできるのだから、「今に生きる」「今すべきことをする」ことが大切です。90年代に「あきらめたらそこで試合終了ですよ!」という言葉は、バスケット界を超えて若者たちの心を打ち「金言」となりました。今、世界はコロナ禍に加えて、ここに来て厳しい激動の時代が現実になろうとしています。義務教育を修了し、今後幾多の困難や試練に遭遇するであろう、大宮中学校第73期生の皆さん。最後に安西先生の名言「あきらめたらそこで試合終了です」を贈ります。大きな壁にぶつかった時に、この金言をつぶやいて、変化から学び今に生きてください。(後略) 😊

ぶらっと訪問【C組】⑳

3月7日（月）⑤ C組道徳 神戸教諭

「よわむし太郎」という道徳の読み物資料です。自分が正しいと思うことを、勇気をもって行おうとする心情を育てる主題です。まず、勇気がある人ってどんな人か話し合いました。

神戸先生が範読します。大きな力強い声でゆっくり読んでいきます。ある村に普段はこどもたちに優しく、何をされても言われても決して怒らずいつもニコニコしているため、「よわむし太郎」と言われていた主人公が、ある日現れた殿様が、子供たちが大事にしている白い鳥を弓矢で射抜こうとしたとき、身を挺して「だめだ、この鳥を射ってはだめだ」と立ちはだかる話です。殿様はその気持ちに免じて、太郎の振る舞いを許して鳥を射ずに。それ以来「よわむし太郎」と呼び子どもはいなくなったとさ、という話です。まず、神戸先生は「主人公の太郎はどんな人か」質問します。（ニコニコしてる。こども好き、やさしい人、勇気がある人、立ち向かう人、あきらめない人、ダメなことはダメと言える人。）等の意見が出ます。発表する生徒は、前で皆の方を向いてハキハキ発表しています。それを神戸先生は黒板に板書しながら整理します。次に、『殿様の前にたちはだかった太郎の気持ち』を考えさせます。挙手した人の意見を聞いていきます。怖い、今やらなきゃいつやるの、今でしょ！子供たちの笑顔を守りたくて前に出た、神戸先生は一人ずつ発言が終わると「素晴らしい、はい拍手」と讃えていきます。最後に「弱虫たろうと呼ばれなくなった太郎ってどんな人ですか」について考えます。殿様が怖くても止めてといえる勇気ある人といった意見が出ました。ここでチャイムがな



ってしまいましたが、次回も続きをやるそうです。

「勇気がある人」は、力があって威張る人ではなく、「正しいことをやりとげたい、守りたい」という強い意志をもって行動できる人であるということについては、次の授業で扱うそうです。どこかの大統領に受けさせたい授業だなと、ふと思いました。

3 9（水）

卒業を祝う会
（C組）



卒業式の前に、3年生を送る会を実施しました。器楽合奏、歌やダンス、思い出のスライド鑑賞を行いました。最後に、在校生と卒業生がお互いに思い出を伝えあったり、プレゼントを渡したり、お世話になった先生方にも、色紙やプレゼントを贈りました。保護者の方にもたくさん参観していただきました。ありがとうございました。ありがとうございました。



3

12 (土)

学習発表会

～今年度もコロナに喝！～

1 月からのコロナ禍によるまん防措置の影響で、残念ながら音楽発表会を中止とする判断をせざるを得ませんでした。代案として、昨年度限定企画として実施した、学習発表会を今回も実施することにしました。

ところが本番一週間前に、3学年がコロナ禍で学年閉鎖となり、3年生のダンス発表ができなくなりました。さらに同じ日の午後に予定していた、地域連絡協議会子育て促進事業のD×4(ダンス)フェスも中止に…。自宅待機となった3年生やフェスの実行委員は、本当にガックリしたと思います。そんな中、校内では授業、昼休み、放課後30分間を使って、2年生はダンス練習、1年生は箏曲の練習に励んできました。

当日は、体育館からリモートで3年生の自宅のタブレット PC にライブ配信することで、卒業前のひとときを楽しんでもらいました。開会式では、実行委員長挨拶の後、私は会場の在校生と「卒業おめでとう～」と3年生にメッセージを送り、在校生には「昨年同様、今日のテーマは『感性が光る』とし

ます。この場は、皆の感性を磨く大切な時間です。知性は頭脳で物事を深く考えること。感性とは人の感情の発露です。喜怒哀楽を体を動かしてダンスや音で100%発揮してほしい。終わった時、いつも言ってい



るのですが、感動を覚え達成感が残る時間にしてください」と伝えました。

スタートは、C組のトーンチャイムと器楽合奏です。緊張しながら立派に演奏しました。



次は昼休みに練習してきた、1年生の箏曲演奏でした。選抜メンバーでの『夏の思い出』を美しく奏でてくれました。



さて、今回もダンス発表の2年生は、華麗に舞ってくれました。保体のダンスの授業が、男女共修での取り組みとなったため、去年は男女別のチームでしたが、今年は男女混成チームで踊っていました。練習から男女で相談しながら、工夫を凝らした作品を完成させてくれました。昨年の流れで、カジュアルウェアのチームが多い中で、敢えて標準服で挑戦したチームも目を引きました。



保健体育のダンスの授業の取り組みから、昼、放課後の自主練習を通して、チームで協力して取り組んだ、生徒の発想力の豊かさに、正直舌を巻きました。全部で10チームのエネルギー全開のダンス発表に、会場内は声を控えつつ、手拍子、足踏みで大変な盛り上がりでした。私は講評で、「やっぱり大宮中最高だね。去年も話したけれど、もし中学時代に戻れたら、大宮中でダンスや和楽器の授業を受けるね、間違いなく！感動をありがとう。」と話しました。3年生にライブ配信を行ってみて、あらためて学校行事でタブレットを使って、鮮明に配信できることが分かったことも収穫でした。今後も様々な取り組みで活用していきます。

観に来てね！



なお、今回の学習発表会の様子については、動画を撮影してありますので、来週の22日の保護者会等でご覧いただく機会があります。ぜひ、足をお運びください。

3

17(木)

自分たちで送る会 (3年)

学年閉鎖から復活を遂げた3年生は、14日(月)に、河口湖方面で校外学習を行い、防災アクティビティを受講しました。また、卒業式の前日に、自分たちで3年間の歩みを振り返ったり、ダンスを披露したりして、自分たちで送る会を開きました。学習発表会に参加できなかった鬱憤を晴らすような、3年生の感性が光った時間となりました。細川先生を始め、学年の先生方の隠し芸等も披露されて、大いに盛り上がりました。



サプライズゲストに大興奮

急ぎのお知らせ

大宮中の特別支援教室『学びの教室』に、令和4年度二学期から参加を希望する現1、2学年のお子様のご家庭は、心理・知能検査等が必要となります。区特別支援教育課の検査を希望する場合、3月25日(金)修了式の日までに申請してください。期日に間に合うように学級担任にご相談ください。